

# 環境中期計画「ブーア (Blue Earth) 21」の進捗状況を報告します。

「ブーア21」では、「環境中期計画スローガン」を掲げ、9つのテーマを設定し、部門ごとに目標達成に向けて、取り組みを進めています。

▼環境中期計画スローガン  
環境で選ばれるコスモ石油

—真の環境先進企業を目指す—  
企業市民として社会的責任を果たす 環境保全と経済性の両立

## 環境中期計画「ブーア21」2003年度の進捗状況

テーマ	取り組み方法	中期目標 (2004年度)
① 温暖化対応 事業活動におけるCO <sub>2</sub> 削減と 新エネルギーへの取り組み	省エネルギー	製油所におけるエネルギー消費原単位▲9.2% (1990年度比) 物流部門における燃料消費量削減 タンクローリー▲20% (1990年度比)、内航船▲17% (1990年度比) オフィスにおける省エネルギーの推進 オフィス電力▲5% (2003年度比)◇、社有車燃料消費量▲7% (2003年度比)◇
	京都メカニズムへの取り組み	京都メカニズムの利用検討
	新エネルギーへの取り組み	新エネルギー導入検討 (風力発電の事業化推進、SSソーラーパネル2件以上)
② 汚染物質排出削減 法規制値を下回る排出抑制の継続と 産業廃棄物等の自社基準での対応	大気汚染防止	製油所SOx、NOx、ばいじんの現状排出レベル (法規制値以下) の維持
	水質汚濁防止	製油所のCODの現状排出レベル (法規制値以下) の維持
	産業廃棄物の削減	製油所の最終処分量の平均削減率 (2002~2004年度) ▲81% (1990年度比) 最終処分量 (埋立処分量) / 発生量 = 1.5%以下 ゼロエミッションを目指し、さらなる産業廃棄物の最終処分量の削減目標を設定◇
	化学物質管理 VOC削減の自主対応	法規制に基づく化学物質管理の実施・推進 製油所・油槽所・SSをリンクさせた対応方法の検討
③ 土壌環境対応 実態把握・対応と未然防止の推進	SS (サービスステーション)	未然防止の推進、SS施設の自主点検、対応の実施
	他事業所	事業所別土壌調査・対応の実施
④ 省資源 3Rリデュース・リユース・リサイクルの 推進による一般廃棄物の削減等	紙	2005年からの製油所システム更新に向け帳票類の統廃合・電子化等による電算帳票類の削減検討◇
	日用品	全事業所で分別回収・再資源化の体制整備◇
	水	SSにおける排水リサイクル装置導入推進 (2件以上)
⑤ 製品の環境負荷低減 環境負荷の低い石油製品の供給	軽油対応	サルファーフリー (10ppm以下) の軽油の供給体制の確立
	ガソリン対応	サルファーフリー (10ppm以下) のガソリンの供給体制の確立
⑥ グリーン購入 グリーン購入対象の拡大	資機材・工事等	資機材 (建築資材等)、副資材 (薬品、触媒等)、 工事等のグリーン購入の実施と対象範囲の拡大
	事務用品	基準に沿った購入の継続実施◇
	グリーンサプライヤーからの購入	グリーンサプライヤーからの購入実施と対象範囲の拡大
⑦ 研究開発 石油製品および事業活動に関連する 環境技術開発と新エネルギー分野での技術開発	石油製品	製品の環境負荷低減に向けた高性能触媒開発
	環境技術開発	廃棄物削減に向けた触媒使用量の削減・再利用技術と余剰汚泥減容化技術開発 土壌中油分評価技術および土壌浄化技術の開発 VOC等ペーパー吸着・回収にかかわる技術サポート
	新エネルギー分野	燃料電池システム、天然ガス液体燃料 (GTL) 化技術開発
	環境保全技術協力	環境関連技術の海外移転実施
⑧ 環境貢献プロジェクト 温暖化防止を中心とするプロジェクトの継続的な展開	「エコ」カードプロジェクト	地球温暖化防止を主題に、①開発途上国支援、②環境教育に資するプロジェクトの継続実施◇
	社会貢献	社会貢献活動の継続実施
⑨ 環境経営推進施策 環境マネジメントの継続的な推進と さまざまなステークホルダーへのコミュニケーション	環境マネジメント	人材育成に向けた環境意識共有化の推進
	コミュニケーション	ステークホルダー別の効果的な環境情報の発信

2003年度の進捗状況

2003年度には重点テーマとして、全社員で取り組む草の根活動と、リスクマネジメントを強化するため、「ゼロエミッション」「グリーン購入」「土壌環境対応」を設定しました。  
2003年度はその素地となる体制や実行計画を策定しました。今後はそれぞれに成果を出すべく、取り組みを発展させていきたいと考えています。

2004年度の計画

2003年度に引き続き、「ゼロエミッション」「グリーン購入」「土壌環境対応」を重点3テーマに設定し、環境中期計画に取り組みます。  
2004年度は環境中期計画(第1期)の最終年度となりますので、全テーマの目標達成を目指します。  
また、2003年度の実績を検討した結果、一部の目標を見直しました。

評価 ● ○：目標を達成 △：目標を未達成  
▲…… 低減を意味します  
◇…… 2003年度に目標値を見直し・設定しました

2003年度目標		2003年度進捗	評価	関連頁
	▲8.3% (1990年度比)◇	▲10.7%	○	21
	タンクローリー▲19% (1990年度比)	タンクローリー▲20%	○	25
	内航船▲16% (1990年度比)	内航船▲11%	△	25
	全社展開体制の整備	体制整備のためオフィスグリーンチームを設置 全事業所に対してオフィスの省エネについて調査実施	○	24
	左記同様	豪州排出権の行使と活用 CDM・排出権取引に関するノウハウ取得のための試行事業、研修等に参加	○	41
	左記同様	風力発電のため風況調査を実施	○	28
	左記同様	SSソーラーパネル4件設置	○	26
	左記同様	維持(各種関連法規制遵守)	○	22
	左記同様	維持(各種関連法規制遵守)	○	23
	左記同様	▲87.4% (1990年度比)	○	21
	サイト別ゼロエミッションに向けた体制づくり	産業廃棄物のゼロエミッション実行計画の策定	○	15
	左記同様	PRTR法に基づき化学物質の排出量、移動量を把握し、行政へ届出実施	○	22
	左記同様	製油所、油槽所におけるVOCの実態把握、対応検討(ただし、計画に対して遅れあり)	△	—
	左記同様	EMポイント(SS管理ツール)年2回実施、SS従業員への環境管理の啓発活動実施 自主タンク検査の実施	○	16 26
	計画的な調査・対策実施	11ヵ所で土壌調査を実施、設備の維持管理と日常点検の徹底	○	16
	電算帳票類の削減▲18% (2002年度比)	電算帳票類の削減▲33.3%	○	24
	取り組み事業所の拡大	体制整備のためオフィスグリーンチームを設置 全事業所に対して分別回収、再資源化について調査を実施	○	—
	4件	排水リサイクル装置の導入は実施せず	△	—
	硫黄分50ppm規制に対応した軽油の供給	2003年4月より硫黄分50ppmの軽油の全国供給実施	○	データブック p5
	左記同様	設備の新設を含む供給体制確立のための準備	○	11
	グリーン購入基準の策定	サプライヤーへの調査を実施し、グリーン購入基準を策定(計画の進捗に遅れあり)	△	15
	グリーン購入基準の策定	全事業所に対して調査を実施し、グリーン購入基準を策定	○	15
	グリーン購入基準の策定	サプライヤーへのアンケート調査を実施し、グリーン購入基準の策定	○	15
	左記同様	サルファーフリー軽油製造用高性能脱硫触媒の開発継続	○	27
	左記同様	開発した余剰汚泥減容化システムの実運用での技術サポート実施	○	11
	左記同様	FCC金属捕捉剤の開発継続	○	—
	左記同様	開発した土壤中油分評価技術の製油所、SSでの利用、土壌浄化技術の開発の継続(計画の進捗に遅れあり)	△	27
	左記同様	VOC回収装置の販売支援等のための7件の技術サポート実施	○	—
	左記同様	GTLパイロットプラントにおいて開発触媒の実証化試験の実施	○	27
	左記同様	燃料電池プロセスのためのLPGおよび灯油を原料とした水素の製造触媒の開発の継続	○	12
	左記同様	海外技術協力の実施(ゼロフレア化、省エネ等)	○	43
	左記同様	「エコ」カードプロジェクトの継続実施	○	39
	左記同様	次世代を担う子どもたちへ環境啓発を目的とした「コスモ子ども地球塾」、 環境保全を社会へ呼びかける「コスモ アースコンシャス アクト」等の実施	○	49~50
	左記同様	階層別研修で環境教育を実施	○	36
	左記同様	環境出版物、広告、WEBによる環境情報の発信継続	○	47~48